

「カメラの前に立つより、
と、彼女たちは言った」

French Female New Wave

フレンチ・フィーメイル・ニューウェーブ

グッバイ・ファーストラブ
UN AMOUR DE JEUNESSE



スカイラブ
LE SKYLAB



ベルヴィル・トーキョー
BELLEVILLE TOKYO



3月30日(土)より6週間限定ロードショー!!

3月30日(土)～4月5日(金)	11:30 グッバイ・ファーストラブ	14:00 スカイラブ	16:30 ベルヴィル・トーキョー	19:00 グッバイ・ファーストラブ
4月6日(土)～4月12日(金)	11:30 スカイラブ	14:00 ベルヴィル・トーキョー	16:30 グッバイ・ファーストラブ	19:00 スカイラブ
4月13日(土)～4月19日(金)	11:30 ベルヴィル・トーキョー	14:00 グッバイ・ファーストラブ	16:30 スカイラブ	19:00 ベルヴィル・トーキョー
4月20日(土)～4月26日(金)	11:30 スカイラブ	14:00 ベルヴィル・トーキョー	16:30 グッバイ・ファーストラブ	19:00 スカイラブ
4月27日(土)～5月3日(金)	11:30 グッバイ・ファーストラブ	14:00 スカイラブ	16:30 グッバイ・ファーストラブ	19:00 ベルヴィル・トーキョー
5月4日(土)～5月10日(金)	11:30 ベルヴィル・トーキョー	14:00 グッバイ・ファーストラブ	16:30 スカイラブ	19:00 グッバイ・ファーストラブ

FFNW Collaboration Events NEWS

■「フレンチ・フィーメイル・ニューウェーブ —— Everyone has a story —

誰もが忘れないストーリー(想い出)があると思います。そんなあの時を思い出すようなアイテムを2/1～3/3に出品受付中!
(出品してくださった方には映画の割引券をプレゼント)

★3/1(金)・3/20(水) PASS THE BATON OMOTESANDO GALLERYにて展示販売します。
(表参道ヒルズ西館B2F) TEL 03.6447.0707

<http://www.pass-the-baton.com/> ※PASS THE BATONは現代のセレクトリサイクルショップです。



★FFNW×PASS THE BATON 限定
ペイントオーバーバッグの販売を予定しています。

(USEDのショッピングバッグの上からプリントするので全てが1点もの)

■3/1～3/10まで、下記のショップにてフレンチティエストを集めたコーナーから商品をお買い上げのお客様に映画の割引券をプレゼント!

「フレンチ・フィーメイル・ニューウェーブ × Bleu Bleuet」

★Marché de bleuet plus 渋谷ヒカリエ店 Tel 03-6434-1667

Bleu Bleuet
bleubleuet.co.jp



■3/4(月)～3/17(日)、代官山蔦屋書店にて“女性監督が撮った映画”コーナーの展開!!

※パンフレット付前売券を発売中! 蔦屋書店

(詳しくは公式HPまで)

初日プレゼント

初日来場の方、初回先着50名様にフランス生まれの
オーガニックリップクリーム「プランツシステムリップクリーム」をプレゼント!
※種類は選べません。 提供:株式会社H&BC www.h-bc.co.jp/plantesystem



当日一般¥1,800／学生¥1,500／シニア・会員¥1,000 前売券¥1,500にて発売中(3作品の中から1作品を観られる券になります)

前売3回券¥3,000発売中(劇場窓口のみ) 2本分の料金で3本観ることができちゃいます!

3回券の特典としてエコバックを先着100名様にプレゼント!※エコバックは無くなり次第終了となります。

渋谷[シアター]
イメージフォーラム
【自由席・整理券制・定員入れ替え制】



TEL.03-5766-0114 | www.imageforum.co.jp

渋谷駅より徒歩8分 宮益坂上がり、次の信号スタートバックスコーヒー右手に入る

シアター・イメージフォーラム会員割引のご案内

年会費2,000円で1年間どの映画も1,000円で観られる! 1年延長の更新は1,000円

*窓口にて申込みます。



*French Female
New Wave*

女性の気持ちがわかる女性監督だからこそ描けた3作品をあなたに

フレンチ・フィーメイル・ニューウェーブ

スカイラブ LE SKYLAB 監督:ジュリー・デルピー
グッバイ・ファーストラブ UN AMOUR DE JEUNESSE 監督:ミア・ハンセン=ラブ
ベルヴィル・トーキョー BELLEVILLE TOKYO 監督:エリーズ・ジラール

配給:マーメイドフィルム 宣伝:VALERIA 配給協力:(社)コミュニティシネマセンター
後援:アンスティチュ・フランセ日本、ユニフランス・フィルムズ

© 2011 The Film/Mars Films/France 2 Cinéma/Tempête sous un ciel production
© LFP - Kés Films/PelMas, Razor Film, ARTE France Cinéma, Rhône-Alpes Cinéma JourJ Productions 2011
© International Sales: INSOMNIA WORLD SALES & Producer: DOLCE VITA Films

<http://mermaidfilms.co.jp/ffnw>

French Female New Wave

フレンチ・フィーメイル・ニューウェーブ

1950年代後半から1960年代の初め、フランスではジャン=リュック・ゴダール、フランソワ・トリュフォー、ジャック・リヴェット、クロード・シャプロル、エリック・ロメールら数多くの映画作家たちが今までの映画とはうって変わった新しい作品を作りました。彼らはヌーヴェル・ヴァーグ(新しい波)と呼ばれ、映画の歴史に大きな足跡を残しました。それから半世紀、今またフランス映画の世界に新しい動きが生まれています。ここ10年で20人以上の女性監督が誕生し、今までの“女性映画”的な枠を大きく超えた作品を発表しているのです。

イギリスの「ガーディアン」紙(2011年3月24日付)ではこれらの動きをFRANCE'S FEMALE NEW WAVEと名付けて紹介し、フランスの権威ある映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」2012年9月号でも表紙を含め大々的な女性監督特集が組まれています。彼女たちの作品は初恋、男女のすれ違い、結婚生活の不和、家族とのふれあいといった自分にとって身近な題材を繊細な演出で表現したものが多く、それゆえに多くの女性たちから熱烈な支持を受けています。ある時は女優として、またある時は監督として、お互いの作品を自由気ままに行き来する柔らかい連帯こそ彼女たちの強み。何かと言えば従来を組んでしまいかちな男性作家に対する強烈なアンチテーゼがそこには含まれているのかもしれません。

映画史上初の女性監督アリス・ギイ(パリ生まれ。1873~1968)を筆頭にアニエス・ヴァルダやクレール・ドゥニを慕う彼女たちは、フランス女性監督の確かなDNAが引き継がれているのです。



初恋の記憶は永遠に消えない。

「グッバイ・ファーストラブ」 UN AMOUR DE JEUNESSE

2011年/110分/カラー/35mm 出演:ローラ・クレトン、セバスティアン・ウルゼンドフスキ



監督自身が10代のころに経験した初恋をモチーフに描かれたみずみずしい青春映画。真夏の南仏で燃え上がった2人の恋もヴァカンスの終わりと共に色褪せて…。別々の人生を歩み始めたはずなのに、なぜか彼女の心は彼の面影を求めてしまう。精神と肉体の微妙なバランスの中で揺れ動く多感な少女が大人への階段を登り始める瞬間を美しくとらえた傑作。



“この映画は人間の持つ矛盾を積極的に容認しています。そしてそうした矛盾こそが人生の重要な構成要素だと思います。ヒロインは同時にふたりの男を愛し、そのアンバランスな関係にバランスを見いだのです。”

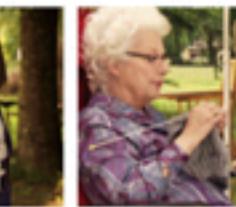
監督・脚本: ミア・ハンセン=ラブ

1981年生まれ。オリヴィエ・アサイヤス監督の「8月の終わり、9月の初め」で女優デビューを果たす。国立高等演劇学校で演技について学び、やがて映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」で批評活動を始める。2007年、初長編作品「すべてが許される」を発表し、続く2作目「あの夏の子供たち」はカンヌ国際映画祭<ある視点>部門で審査員特別賞を受賞している。

やっぱり家族が一番。

「スカイラブ」 LE SKYLAB

2011年/113分/カラー/デジタル 出演: ジュリー・デルピー、ベルナデット・ラフォン、エマニュエル・リヴァ



“この作品ではドラマチックな要素をほとんど排し、観客の興味をかきたてるようなキャラの立った人たちを動かしてストーリーを語りたいと思いました。なぜなら映画では何も起こらないシンプルな瞬間にこそ重要なことが表現できるからです。”

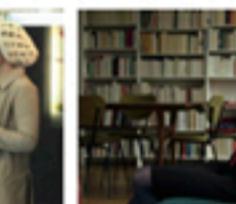
監督・脚本・出演: ジュリー・デルピー

1969年生まれ。舞台俳優の両親のもと幼少時より映画に出演。1980年代半ばにジャン=リュック=ゴダール監督の「ゴダールの探偵」、レオス・カラ克斯監督の「汚れた血」といった話題作への出演で注目を浴びる。その後ニューヨークに渡り、演技と監督術を学び、1996年リチャード・リンクレイター監督の傑作ラブストーリー「恋人までの距離(ディスタンス)」で世界的なスターに。2007年「パリ、恋人たちの2日間」の監督・脚本・出演をこなし、ベルリン国際映画祭で絶賛される。

「愛してる」って言葉は信じていいの?

「ベルヴィル・トーキョー」 BELLEVILLE TOKYO

2011年/75分/カラー/デジタル 出演:ヴァレリー・ドンゼッリ、ジェレミー・エルカイム



“妊娠していたとき、ひとりで過ごす経験をしました。その時思ったのです。この主題はほとんど映画で取り上げられていないことに。妊娠は映画の中で短絡的に描かれたりすることが多いのです。そこで妊娠したことがきっかけになり別れる男女を撮ろうと決めました。”

監督・脚本: エリーズ・ジラール

1974年生まれ。アニエス・ヴァルダ監督の傑作「5時から7時までのクレオ」を修士論文のテーマにしてソルボンヌ大学を卒業後、演劇学校で学ぶ。エリック・ロシャン、モーリス・ピアラ等の作品に端役で出演。1997年からパリのカルチュラタンにあるシネフィルの殿堂<シネマ・アクション>系列の映画館で広報を担当。やがて映画業界をテーマにしたドキュメンタリーを2本制作する。本作は初の長篇劇映画。